

研究指定校名 : 鳥取市立東中学校

1. 学校の概要

学校名	鳥取市立東中学校
学級数	19学級（うち特別支援学級：6学級）のぞみ分校2学級含む
児童生徒数	全生徒数：387人（令和2年1月1日現在）分校含む
URL	http://www.torikyo.ed.jp/torie-j/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

仲間を大切にし、互いに尊重し合い、よりよく生きようとする生徒の育成
～不断の自治力啓発によるいじめのない学びの場づくり～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本校は、平成30年度創立72年目を迎えた市内でも伝統のある中学校の一つである。ここ数年、不登校や深刻ないじめ事案等を含む生徒指導上の問題が多発しており、生徒指導面で厳しい対応を迫られていた。加えて、平成30年4月に実施した全国学力・学習状況調査結果（全国平均比較、国語A：－3.1, 国語B：－2.2, 数学A：－6.1, 数学B：－6.9, 理科：－3.1）からもわかるように学力の低下も著しかった。こうした厳しい状況の背景には、要・準要保護家庭生徒（19%）、外国籍生徒（3名）、児童養護施設から通学する生徒（12人）が在籍しているなど、複雑な家庭環境で育った生徒が多く存在することも要因としてあげられる。各種アンケートからも、「自己肯定感」「自己効力感」「共感的人間関係」等の項目で肯定的な回答率が低いことなどが結果として生徒の実態にあらわれている。現状として、自他を大切にできず問題行動を繰り返す生徒の対応に追われ、教職員は疲弊し、悪循環から脱却できていない実態があった。

平成30年度は、校務分掌組織と学校評価の流れを改編し、PDCAに沿った学校組織マネジメント体制を構築した。教職員がチームとなって協働し、生徒一人ひとりが自分も他者も大切にしながら、深く考えたり、自主的に行動したりするしかけをつくり持続的に育成することを努力した。具体的には、「研究推進委員会」を核に、行事だけにとどまらず、授業の中で生徒同士が学び「共有化」を行い、自己の考えを持ち、他者とかかわるスキルを身につけ、他者から学び、尊重できる生徒を育成することをめざして教育活動を実施してきた。このことが望ましい人間関係を築くとともに、いじめ防止につながると考えたからである。こうした取組の成果として、学校は徐々に落ち着きを取り戻し、いじめ、問題行動も減少しつつある。過去の悪循環から脱却し、好循環に導き確かな成果を得るには、この研究を単発で終わらせず、平成31（令和元）年度も継続させる必要があった。

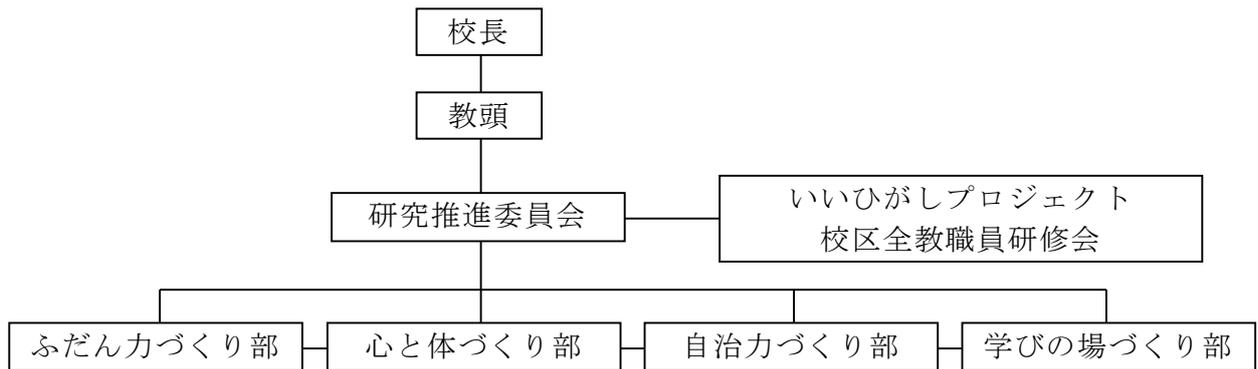
これらの課題とこれまでの取組の成果を踏まえ、研究テーマを引き続き『仲間を大切にし、互いに尊重し合い、よりよく生きようとする生徒の育成～不断の自治力啓発によるいじめのない学びの場づくり～』と設定した。

(3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	
④障害者	
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	

⑦外国人	
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他 ()	

3. 調査研究の推進体制



〈関係協力期間〉 ○鳥取県教育委員会 ○鳥取市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

○深刻ないじめ事案を含む問題行動の多発

(平成29年度年間97件→平成30年度12月まで35件) →平成31年度30件以内

○年間30日以上欠席者が5%を超える。

(平成29年度6%→平成30年度12月まで3.8%) →平成31年3%以内

○学力の低下が著しい。

(平成30年4月実施全国学力学習状況調査結果 全国平均比較、国語A：-3.1, 国語B：-2.2, 数学A：-6.1, 数学B：-6.9, 理科：-3.1)

→平成31年度全国平均との乖離率減少

○各種アンケート結果によると「自己肯定感」「自己効力感」「共感的人間関係」等の項目で肯定的な回答が低い。→平成31年度 前年度より上昇

(調査研究の内容)

○ふだん力づくり部：ボイスシャワーのあふれる学校づくりをすすめ「自己肯定感」を高めると共に人権感覚を高め、自他を大切にす生徒の育成に取り組む。

○自治力づくり部：生徒の自治力を柱にした「自己効力感」や「共感的人間関係」が図れる仲間づくりをめざす。

○学びの場づくり部：生徒の学びが見てとれる学習環境づくりや授業での図書館の効果的な活用をすすめる。

○心と体づくり部：学校不適應の生徒や発達障がい等の障がい特性のある生徒の支援対策に取り組む。

○研究推進：久我直人教授（鳴門教育大学）を招聘した研修を行い、校区小学校にも研究結果を広め共有化を図る。

（実施方法）

○人権が尊重される環境づくり<ふだん力づくり部>

- ・教室環境整備の徹底と掲示物の破損等定期点検を実施し、細部にわたり配慮することで、少しの異変・違和感を見逃さない安心安全な環境の維持に努めた。
- ・昨年度から継続して、全教職員が学校生活全般（主に授業中）において意図的な「勇気づけのボイスシャワー」を行うことを通して、生徒に肯定的な印象、安心感を与えることを目的に声をかけ続けた。また、「話を聞く態度を育てる」ことを意識し、全教職員が基準を共有して、話し手の方を見て聞くこと相手を大事にすることを徹底した。その結果、授業態度が落ち着き、笑顔で話を聞く生徒が増えた。

○共感的人間関係を構築する集団づくり<自治力づくり部>

- ・運動会での縦割り種目や学芸発表会での縦割り練習など、行事で縦割り活動（異年齢交流体験）を実施した。それに向けて縦割り結団式を行い、3年生がリーダーになり、グループごとに集会を企画し、笑顔で活動を行った。
- ・生徒会がウォームハートプロジェクトを企画し、互いの考えや思いを受け止め、相互理解する体験を行った。

<ウォームハートプロジェクト①>

「学級の仲間いいところみつけ」（9月）

<ウォームハートプロジェクト②>

「学級の仲間へありがとうメッセージ」（11月）

<ウォームハートプロジェクト③>

「先輩・後輩へありがとうメッセージ」（2月）

- ・地域の方々（東心会・東中サポーターズ等）との（学級の仲間へありがとうメッセージ）ふれあいを通して人権感覚を養うボランティア活動を行った。



← 東心会主催 防災デイキャンプ 11月3日



東中サポーターズ主催

綿種まき・綿打ち体験 5月～10月 →



○生徒の学びが見てとれる学習環境づくりや授業での図書館の効果的な活用

<学びの場づくり部>

- ・新入生に対し中1ギャップ解消のための“学びの作法についての”オリエンテーションの実施
- ・「デイリーノート」（生活ノート）の活用方法とその功用
- ・「朝の学び」（朝学習）の目的と実施方法・学ぶことの意味
- ・家庭学習の取り組み方
- ・図書館オリエンテーション他
 - ① 生徒の安心安全を担保するための、学級経営上参考となる資料を作成配布



- ② 各教科における年度当初のオリエンテーション授業に向けて教科会を開き検討
- ③ 高等学校、地域、外部機関と連携したキャリア学習の充実進化
- ④ 学校図書館を情報収集基地（ベース）とし、学校司書が様々な学習資料を近隣図書館から収集し、生徒の調べ学習を支援



○ピア・サポートによる自己有用感・人間関係調整能力の育成<心と体づくり部>

希望生徒を対象に、スクールカウンセラーが中心となり、毎月1回放課後に実施した。大きな集団の中では、自己表現ができなかったり、人間関係でトラブルを起こしてしまったりする生徒が、ここでは安心して笑顔で活動する姿が随所で見られた。

○スクリーニングシートの作成・活用により早期に不適應を発見する。

○性に関する指導（WYSH教育）により自己肯定感や自尊感情を高め、自他共に大切にする心情を育てた。



(検証・評価・普及)

○生徒意識調査（年2回）

7月と12月の2回、ASSESS（アセス）を実施し、分析を行った。

昨年度に引き続き、教師サポート（教師との人間関係）の分野では、適應状態の割合が高い傾向がみられた。これは全教職員による「勇気づけのボイスシャワー」の成果であると考えられる。昨年度、あまり変化がなかった友人サポート（同級生との人間関係）、非侵害的関係の分野では、学校全体で、若干の向上がみられ、取り組みの成果が徐々に出てきていると考えられる。

○いじめアンケート（随時） ※5月、7月、10月、12月実施（2月にも実施予定）
 <いじめアンケート推移> 単位は人数

質問に対する回答		H29.5月	H30.5月	H30.12月	R1.5月	R1.5月	R1.12月
学校生活が楽しくない。	1年		3	4	2	3	4
	2年	3	4	6	4	6	2
	3年	5	5	12	2	4	1
	合計		12	22	8	13	7
人に意地悪や嫌がらせをすることがある。	1年		1 (10)	2 (17)	4 (10)	4 (13)	1 (14)
	2年	1 (14)	5 (9)	2 (10)	0 (10)	3 (9)	0 (10)
	3年	2 (24)	1 (6)	2 (11)	3 (7)	1 (6)	0 (3)

()内は「たまにある。」	合計		7 (25)	6 (38)	7 (27)	8 (28)	1 (27)
人からいじめや嫌がらせを受けている。 ()内は「たまにある。」	1年		1 (7)	2 (10)	0 (8)	1 (11)	1 (8)
	2年	1 (12)	0 (6)	1 (5)	1 (10)	2 (8)	1 (7)
	3年	3 (18)	1 (6)	0 (8)	0 (5)	1 (6)	0 (4)
	合計		2 (19)	3 (23)	1 (23)	4 (25)	2 (19)
周りにイヤな思いをしている人がいると思う。	1年		6	18	5	6	6
	2年	12	1	2	2	10	7
	3年	5	8	2	1	3	3
	合計		15	22	8	19	16

○評価と普及

3年生は学習内容が難しくなり、受験勉強のストレスなどがある中でも、「学校が楽しくない。」とした生徒は1名まで減少した。2年生も心身ともにバランスが悪い中でも2名まで減少している。一方で、1年生は中学校に慣れてきて、人間関係に悩む生徒が増加している。昨年度、小学生だった1年生や2・3年生も人間関係でのトラブルが多発していたが、本年度は「人に嫌がらせをする生徒」が劇的に減少した。地道なボイスシャワーと肯定的なかかわり、相手を大事にする「聴くことの徹底」が少しずつ生徒たちの内面を変化させていった。即効性はないが、確実に効果はあったように感じる。また、周りへの気づきや配慮もともに高まってきており、周りに無関心だった生徒が多かったが、現在は周りの生徒のちょっとした変化に気づける生徒も増えてきている。「周りにイヤな思いをしている人がいると思う。」と回答した生徒のアンケート内容も、相手を思いやる内容や自分が不快に思うので注意したいという前向きな内容に変化してきている。2・3年生が落ち着いたように、1年生も継続してかかわり続けることで、徐々に落ち着いてくるのではと期待している。

深刻ないじめ事案を含む問題行動の件数は平成29年度年間97件、30年度が47件であったが、本年度12月末までで48件と少し増加しているように見える。しかし、問題行動は大幅に減少している。件数の増加の要因としては、いじめの積極的認知によるいじめ件数の増加も一つの要因ではあると考える。また、年間30日以上欠席をした生徒の割合は平成29年度6%、30年度は3.8%、本年度は12月現在で3.1%にまで減少した。

学校は徐々に落ち着きを取り戻し、授業中の生徒の笑顔が増えてきた。過去の悪循環から脱却し、好循環に導き確かな成果を得るには、この研究を単発で終わらせず、来年度も継続させる必要がある。また、校区内の小学校とも連携し、この取組を普及していきたいと考えている。

(2) 実施結果

時期	内容	備考
4月～ 9月	・研究推進委員会（研究の柱の共通理解）、各分掌部による方針確認 → 職員会 ・いじめアンケート（随時実施）	参加者50人
5月8日 5月21日	・第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 ・研究授業・研修会 講師：鳴門教育大学教職大学院 久我直人教授 鳥取県教育委員会人権教育課 本庄大志指導主事 東部教育局社会教育担当 平野靖博社会教育主事 鳥取市教育委員会学校教育課 福田美奈主幹	参加者1人 参加者60人
5月28日	・ウォームハートプロジェクト（厚生委員） （東部総体への応援メッセージ）	
5月29日	・東中校区全教職員研修会（授業公開、小中連携）	参加者120人

5月31日	・ピア・サポート実施	参加者5人
6月28日	・ピア・サポート実施	参加者5人
7月8日	・第1回生徒意識調査（ASSESS）の実施 ・校区共通アンケート実施	
7月18日	・運動会に向けた縦割り活動（異年齢交流体験）	
8月22日	・東中校区全教職員夏季研修会	参加者120人
9月10日	・ウォームハートプロジェクト（厚生委員） （学級の仲間いいとこみつけ）	
9月26日	・ウォームハートプロジェクト（厚生委員） （秋季大会への応援メッセージ）	
10月2日	・前期Check&Action研修会	参加者40人
10月4日	・ピア・サポート実施	参加者5人
10月25日	・ピア・サポート実施	参加者5人
11月1日	・地域学校協働本部主催の教育活動 「東心会防災デイキャンプ」	参加者100人
11月5日	・学芸発表会に向けた縦割り活動（異年齢交流体験）	
11月12日	・ウォームハートプロジェクト（厚生委員） （学級の仲間いいとこみつけ）	
11月16日	・PTA人権教育講演会 講師：鳥取県教育委員会人権教育課 寺谷孝志係長	参加者30人
11月21日	・研究授業・研修会 講師：鳴門教育大学教職大学院 久我直人教授 鳥取県教育委員会人権教育課 本庄大志指導主事 東部教育局社会教育担当 平野靖博社会教育主事 鳥取市教育委員会学校教育課 福田美奈主幹	参加者60人
11月22日	・ピア・サポート実施	参加者5人
12月18日	・第2回生徒意識調査（ASSESS）の実施 ・校区共通アンケート実施	
1月7日	・ピア・サポート実施	参加者5人
1月22日	・東中校区全教職員研修会（授業公開、小中連携）	参加者120人
1月30日	・豊学校との交流会（生徒会 厚生委員会）	参加者20人
2月4日	・人権教育講演会（1年） 講師：LINE株式会社 一ノ瀬史子 氏	参加者150人
2月7日	・人権教育講演会（3年） 講師：LINE株式会社 一ノ瀬史子 氏	参加者120人
2月10日	・第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会及び報告会	参加者1人
2月12日	・後期Check&Action研修会	参加者約40人
2月14日	・ウォームハートプロジェクト（厚生委員） （先輩・後輩へありがとうメッセージ）	
2月20日	・人権教育講演会（2年） 講師：LINE株式会社 一ノ瀬史子 氏	参加者120人
2月28日	・ピア・サポート実施	参加者5人

(3) 人権教育に係る年間指導計画

別添参照のこと